

2. 開催地（岩手県釜石市）からの話題提供

(1)釜石東中学校 & 吉浜中学校の取組

村上 洋子 （大船渡市立吉浜中学校 校長）

はじめに、3.11 のときには全国の皆様から多大なご支援、支援金等々いただきまして大変ありがとうございました。おかげさまで子どもたちは一生懸命元気に学んでいます。当時のことを思い出すと大変だったなと思いますが、皆様からの熱い心が私たちに毎日毎日シャワーのように届きまして、子どもたちが元気だったなと思い出しているところです。

1.端折ってお話いたします。話の内容は大きくは3つです。

3.11 の前に釜石東中学校がやっていたこと・防災教育、当日のこと、そして3年前に来ました吉浜中学校でやり始めました防災教育の状況をご紹介します。私の話にさせていただきますと思います。

◆3.11 前の釜石東中学校の防災教育

2.釜石東中学校のことをお話します。全校生徒は、当時217名。3階建ての校舎で楽しく学んでいました。道路を挟んで鶴住居小学校があり児童数は300人を越え、釜石で一番大きな学校でした。

4.釜石は大変たくさんの過去の津波を受けておりました。こういう歴史を子どもたちと一緒に学ぶことが私たち釜石東中学校の防災をすすめていく上で大事なことだったかなと思っています。

5.群馬大学の片田教授を招いて講演会を開き、住民や先生方が津波のメカニズムを学びました。私自身も何となく防災教育って新しいことでわかりにくくて難しい思いがあり、なかなかとっつきにくかったです。私はすぐに飛びついたわけではなく、やっていくうちに子どもたちが変わり、職員が変わっていくのを見て、防災教育って魅力があると感じたことをお伝えしたいです。

6.片田先生の教え、避難3原則。3原則を具現化するとき、私たちは何ができるのかなと思っていました。

7.釜石東中学校で行ったのは、「EAST-レスキュー」という取り組みです。

8.防災学習「EAST-レスキュー」について、説明します。
まず、イーストという言葉ですが、イーストのEは東中生、イーストのAは手助けのアシスト、Sは学習する、Tは津



釜石東中学校の位置

全校生徒 217名
(平成23年度)
根浜海岸のすぐ近くにある
鶴住居小学校が隣接

過去の津波の歴史

- 1 貞観11年(869) 5月26日 大地震・大津波発生溺死者多し
- 2 慶長16年(1611) 11月 2日 大地震・大津波・数多く死す
- 3 元和2年(1616) 10月28日 朝よりたびたび地震、大津波。老若男女大分死す
- 4 延宝5年(1677) 3月12日 夜大地震、大沙寄せ、各地に被害あり
- 5 寛政5年(1793) 1月 7日 大地震3回、大津波。
- 6 安政3年(1856) 8月23日 午の下瀬(1時)震度5 大瀬押し寄せ津波
- 7 明治29年(1896) 6月15日 宮古沖M7.6 震度2~3(ゆりかぜ地震)
- 8 明治30年(1897) 2月 震度5津波なし 8月震度4津波被害軽微
- 9 昭和 8年(1933) 3月 3日 釜石沖M8.3 震度5 三陸大津波、被害甚大
- 10 昭和27年(1952) 3月 4日 十勝沖地震 津波があるが干潮時に被害僅少
- 11 昭和35年(1960) 5月24日 チリ地震M9.5 津波襲来三陸沿岸3~5、6m
- 12 昭和43年(1968) 5月16日 十勝沖地震M 大槌湾津波推定2.5m
- 13 平成23年(2011) 3月11日 牡鹿半島沖M9.0 東日本大震災
岩手県沖から茨城県沖に被害甚大

片田敏孝教授の教え

- <津波から命を守る避難3原則>
- ↓
- 「想定にとらわれるな」
...ハザードマップは1つの例に過ぎない
- 「最善を尽くせ」
...命を守るために、自分ができることをする
- 「率先避難者たれ」
...まず、真っ先に自分が避難する

全校防災学習

「EAST-レスキュー」

East: 東中生
Assist: 手助け
Study: 学習する
Tsunami: 津波

波の頭文字です。レスキューとは、ご存知のように「救助する」という意味で、「津波、防災について学習して、助けることのできる東中生になろう」という意味を込めて、ネーミングしました。子どもたちは気持ちを引きつけないと動いてくれません。

9.子どもたちに話していたのは「自分の命は自分で守れ」ということです。また岩手県は少子高齢化が進んでいまして、平成20年度には私たちの地区から高校が消えてしまいました。「日中は私たち中学生と家にいるおじいちゃん、おばあちゃん、小さい子どもたち、そういう町に私たちは生まれたんだよ、昼間、津波が来たら君たちは何を？」そして「助けられる人から助ける人になりなさい」と話していました。

10.EAST レスキューの活動内容は5つあります。

11.第1弾は、鶴住居小学校さんと合同で避難訓練を行いました。本校と鶴住居小学校は、道路を挟んで真向かいにあるのですが、海に近く、津波発生時には、学校から避難しなくてはなりません。避難訓練では、中学生には、自分たちが逃げながら、小学生を手助けするよう事前指導を行いました。当時、一緒に避難訓練をすることはどこの地域にもありませんでした。小学生と中学生の顔見知りの関係を作ろうと思いました。

12.けがをしている人や動けない人はどうすれば避難できるか？ということでリヤカーに乗せようと生徒たちは考えました。

13.小中学生が避難した場所、「ございしょの里」老人ホームです。赤白帽は、小学生。青い運動着は中学生。テントの下は、地域の人たち。ここには、600人以上の人が参加しています。地域をまきこんで避難訓練を行っていくうちに次第に地域の方々にも受け入れられていきました。

14.第2弾は防災甲子園で出会った宮古工業高校の皆さんです。津波模型を持参して下さり、津波を疑似体験することができました。

16.こうして、私たちは、津波が来たときのことを何となく想定しながら、防災教育を学んでいたのです。高校生の発表を目の当たりにして、中学生はやっぱり伝えることの大事さを学びます。私は内陸で育ったこともあり、このときまだ20mの津波は来ないだろうと思いながら生徒の前に立っていました。

2 2010年度の活動内容

【防災教育のねらい】

- 1 **自分の命は自分で守る**
- 2 **助けられる人から
助ける人へ**
- 3 **防災文化の継承**

9



10

第1弾 小・中合同避難訓練



災害時を想定し、毎回、避難訓練の内容を変えることで、生徒の意識を変えることにつながる。

落ちてこない・倒れてこない・移動してこない…基本行動を身につける

11

「EAST-レスキュー」 ～地域と共に育む防災文化～



13

第2弾 宮古工業高校から学ぶ



14

17.第3弾は安否札の配布です。これは、ある女子中学生が、考案した物です。津波注意報が出ていたとき、どのうちが逃げたのか逃げていないのかわからないので、消防団員の人が消防車に乗って海沿いの人々に避難を呼びかけています。でも、本当に津波が来たら、消防団員の人も危ない。避難したことが、一目瞭然になるとよい、と考えました。そこで、オレンジ色で目立つようにして配布しました。

18. 釜石東中学校の学区には約 3,000 軒の家があります。生徒は約 200 人。1 人 5 枚配れば、3 年間で全戸に配布できます。夏休みの暑い日に生徒が手渡しで「避難訓練のときに使ってください」と私たちは渡しました。

19.こんな事を通して、釜石東中学校の生徒は、地域に貢献しようとしていたのです。この安否札が、あの日、人々の命を救うことになったのです。こうやって顔が見える関係を作っていると子どもたちは地域の一人となり、非常に大きな成果をあげてきたように思います。

20.第4弾は防災ボランティアストという生徒会の活動です

21.生徒が内容を考えます。毎年行われるものもありますが、変わるものもあります。平成 22 年はこんな内容を行いました。私自身は風水害の講座に出ていたのですが、このときのことが大変大きな意味を持ってまいります。それから宝来館のおかみは炊き出しのとき中学生を受け入れてくださっていて、3.11 のときにはお風呂で 100 人以上のご飯を炊くことができました。ゼロックスというお米と水を入れる赤十字で出している袋があるのですが、それで袋の中に入れるお水さえ綺麗であれば炊く水は何でもよいということを知っていて 100 人以上のご飯を炊くことができたというのもこういうことをやっていたからです。それで防災教育って大事だなと思っているところです。

22.生徒たちは中学校 3 年間の内に 3 つのコースを自分で選んで体験するところがこの講座の良いところだと思います。自分でやってみたいことを学んでおりました。

23.子どもたちは私たちがしたいルールの中だけにいるとなかなか広がりません。ということで、EAST レスキュー隊員 1 級合格を目指し、地域に行って活動したら 1 ポイント、5 ポイントで 2 級、10 ポイントになったら 1 級。3 年間でこういうことをしなさいということをやりました。

24.そして全校朝会で表彰し、子どもたちは本当にはつらつとボランティア活動をしてくれるようになりました。

第3弾 安否札1000枚配布



夏休みはじめの日曜日配布地域の方も笑顔で迎えてくれました。

- 218人の全校生徒が、地域の家庭を回りました。
- 笑顔と笑顔が印象的です。

第4弾 防災ボランティアスト

- 生徒会・委員会活動
- 全校縦割り10グループ
- 専門家の話を聞く機会
- 体験活動中心
- 地域の方との交流



【応急処置】

H22防災ボランティアスト内容

防災マップ作り	地区長さん(川原地区)	防火練習	消防団第6分団
救急搬送	釜石消防署	フィールドワーク1(自主防災・史跡)	地区長さん(両石地区)
応急処置	地区安全奉仕団	フィールドワーク2(津波記念碑)	地区長さん(片岸地区)
水上救助	赤十字安全奉仕団	風水害	盛岡気象台
炊き出し	宝来館(女将) 稲崎漁協女性部	海難救助	釜石海上保安部

第5弾 EASTレスキュー隊員1級合格

- 生徒の励みとするための学校独自の1級から5級の認定制度(認定証・名札)
- 防災の学習や生徒会活動の活動内容や感想を記録
- 積極的に地域のボランティア活動や行事に参加した生徒に、1級(10ポイント)や2級(5ポイント)を認定

第5弾 EASTレスキュー隊員1級合格

認定証
第8号
EASTレスキュー隊員1級
釜石市立釜石東中学校
3年B組35番 梁田麻佳

あなたは、釜石東中学校において、津波防災について学び、助けられる人から助ける人に成長しました。ここにその功績を認め、EASTレスキュー隊員1級を認定します。隊員として今後にも多くの活躍を期待します。
平成22年 8月30日
釜石市立釜石東中学校
校長 平野 憲



- ボランティア活動への関心と意欲の高揚
- 地域の活動への積極的な参加

◆3.11 避難の様子

- 25.そして、やっと、中学生と地域が関係を持てるようになった頃、3.11 を迎えます。
- 26.過去の大きな明治29年と昭和8年の津波を大幅に上回るそんな大津波が私たちのふるさとを襲いました。
- 27.車がすれ違うのがやっと、という、狭い道路です。緩やかな傾斜になっています。右には川が流れています。この道路を約600人の児童生徒、職員、地域の方が駆け上がりました。津波はものすごく速かったです。
- 28.避難訓練をしていた一次避難場所のございしょの里です。テントの後ろの崖から、小石が転げ落ちます。それに気づいたおばあさんが、釜石東中の若い職員に呟きました。私が風水害の講座で学んでいたものは、大きな土砂崩れがある前に臭い、小石が落ちてくる等あるということでした。この崖が崩れたら小学生が危ない！そういうことを咄嗟に判断しまして、写真のような状態で避難していたのですが、もっと上に逃げようと思いました。
- 29.あまりにも大きい地震だったので、泣いている小学生が、たくさんいました。中学生の中にも泣いている子がいました。でも、私たち中学校の職員は、「中学生は泣くな！小学生が不安になる！君たちがいるから大丈夫だ！君たちは助ける人になるために防災を学んできた」と言いました。中学生はそれに答えてくれました。逃げたときの写真を地域の方が残してくれました。写真に写っている車は子どもたちを迎えにきた車です。学校に向かっています。でも私たちが逃げてきているので、路肩に止まって私たちの避難道を確認してくれています。写っている大人はすべて保護者・地域の方々です。みんなが私たちを守ろうとして出てきてくれて、結局はみんなの命を守るということにつながったと思っています。
- 30.第二次避難場所の山崎デイケアサービスです。振り返ってみたとき、目の高さ以上に見えました。最初はなんだかわかりませんでした。これが、津波つものか、自分たちは死ぬんだと思いました。津波に巻き込まれるんだと思いました。そんな中で子どもたちは必死になって自分の命を守りました。ここからは手をつないでなど悠長なことは言ってもらえませんでした。「自分の命は自分で守れ、走るのをやめるな、走れ、走れ」、そんなことを私たち職員は口々に言って逃げました。



【ございしょの里から避難】15:10頃 29



- 31.一次避難場所のございしょの里は、2階窓の下まで津波があったことが分かります。私たちがここにいたらとんでもない大惨事になっていたと思います。真剣に逃げた子どもたちは釜石の誇りです。鶴住居の財産です。あの子たちはこれからたくさんの方を助けてのける子どもたちになると思っています。
- 32.これが崖崩れのあとです。
- 33.私たちの大好きなふるさとには壊れてしまいました。いつものように帰っていた家がありません。
- 34.家族が欠けてしまいました。
- 35.私たちの大好きだった学校もこんなありさまで。
- 36.鶴住居小学校です。3階に車が突き刺さっています。18メートルの津波の威力が分かります。
- 37.釜石市の被害状況です。私たちの学区は釜石の亡くなった方の半数以上で、本校の子どもたちは家族を亡くしていると読み取れます。数で表すと、表の通りですが、命を奪われた人には、かけがえのないこれからの人生がありました。家族がいました。悲しい思いをした人もいました。子どもたちはこれも受け止めています。
- 38.釜石東中学校では一人の生徒を亡くしました。その中でも私たちは学校を再開するために一生懸命動いていたと思います。
- 39.私が防災教育をしていて良かったなと思うことは、かけがえのない子どもたちの命が救われたこと、地域の方々も私たちを守るために出てきて助かったこと、そして安否札が活用されたことです。
40. 60代の男性が、浜仕事中に地震。家には、80代の母と60代の妻がいます。体が不自由な母を妻1人では、避難させることができない。とっさに、軽トラックに乗り、自宅へ向かいます。玄関先にオレンジ色の札が見えました。「あっ、家族は逃げた!!すぐに高台の方へ」とハンドルを切りました。その数秒後に家は津波に飲まれました。釜石東中学校の安否札に助けられたというお話を聞いただけでも私は良かったなと思っています。写真は当日流されずに残った家に掲げられたオレンジ色の安否札でございます。
- 41.私は当時確認しませんでしたけれども保育園の台車を自分の命も危ないというのに押ししてくれた中学生がいましたということで保育園からお礼状が届きました。



42.こんなかたちで中学生は成長しておりました。また自分の家族の安否もわからない頃、避難者カードを作成するようになります。私たちは 3.11 の翌日から甲子中学校にお世話になりました。あまりにもすさまじい被害だったために自分の家族を探す人たちが昼も夜も区別なく来ます。

「せっかく助かったのに、あのおじいちゃんたち眠れないと助からないよね。」ということで、ここにいる人たちの避難者カードを生徒たちはかかげます。夜は静かになりました。

43. 3月とはいえ、釜石は雪が降る寒い春です。「足湯隊」「肩もみ隊」を子どもたちは自分たちで考えてやりました。

44. 5月になって自分たちの学校がない中でも釜石中学校で再開されたとき、教材も何もなかったとき支援の画用紙と絵具を使って釜石東中学校の近くの駐車場に「FIGHT！釜石！取り戻そう故郷を！！」というこんなスローガンを掲げました。これを見た地域の人たちは中学生が頑張っている、私も頑張ろうと立ち上がってくれました。

45.本当に私たちは生かされていると思っています。子どもたちには一生懸命生きること、そして将来地域の一人になることを話しておりました。

46.避難行動を左右するものですが、片田先生から教わった3原則、あれが私たちの命を救ったんだなと思っています。

釜石市の被害状況

広報「かまいし」18号臨時号より

地区名	死亡者・行方不明者数	被災住家数
釜石地区	229	1,485(106)
平田地区	24	389(117)
中妻地区	27	134(134)
甲子地区	14	107(107)
小佐野地区	28	145(145)
鶴住居地区	583	1,737(49)
栗橋地区	7	2(2)
唐丹地区	21	377(31)
他市町村・身元不明	181	—
合計	1,114	4,376(691)

※被災住家数の()は、地震被害数

防災学習をしていてよかった

- ①生徒が避難して無事
- ②率先避難者になり、小学生も外に出て避難して全員無事
- ③小中学生が避難しているのを見た地域の方も避難
- ④日ごろの取り組みが実践できた
- ⑤安否札が活用された

安否札が3月11日活用された

玄関に張り出された安否札
※ある人は、玄関の安否札を見て、家に入らず避難し無事



震災で再認識したこと

- 私たちは、生かされている。
- 日頃の訓練・教育(学習)の大切さ

—生徒に話していること—

- ◇ 当たり前のことを当たり前にする
あいさつ・生活リズム(学校・家庭・地域)
- ◇ 東中生としての自信と誇りを持って行動
- ◇ 人の役に立つ人になろう(地域の1人として)

避難行動を左右するもの

- 1 逃げる姿勢(命でんこ…死なないこと)
想定にとらわれない。自分が判断する。
100回逃げて、100回津波が来なくても101回目も逃げる！！
- 2 自分の命を守る(生きること)
安心安全な場所はない。災害をやり過ごす姿勢づくり。
自然の中に生きる人間であることを意識する。
避難訓練は、常習化しない。時と場を想定する。
- 3 仲間づくり(地域・学校・保護者・行政で連携する)
1人ではなにも出来ない事を知る。行政だけに頼るのは、NG！
自分たちのことは、自分たちがする。
入学式に毛布1枚とペットボトル1本の米持参。卒業式に返却。

◆奇跡の集落 吉浜

- 47.今、大船渡市吉浜中学校に勤めています。
- 48.吉浜も津波の常襲地域です。しかし、吉浜の集落は、100年ほど前の明治29年頃にすでに高台移転を済ませています。
- 50.でも、津波はどこの海岸にも同じようにやってきたのです。吉浜にあった民宿は3階建てですが津波が押し寄せ、水没して全壊しました。
- 51.田んぼも壊れました。けれどもも亡くなった方・行方不明の方は1名、流された家は4軒という奇跡の集落と言われている町に私は赴任しました。
- 55.自分の家があるということ、人の命があるということですぐに復旧活動ができた吉浜中学校です。
- 57.58.そこで私が何をできるかと子どもたちと考えました。
- 59.平成25年度、地域を巡り防災マップづくりをしました。
- 60.自分たちの先人の跡地をまわりました。
- 62.地域をよく知っていく中で、行動をおこしています。福岡県大野城市から東日本大震災から復興を学ぶために交流しています。地域の方やお母さん達が、学校の内部を知るいい機会になります。有事の際には、お母さん達が、先生がいなくても炊き出しができます。
- 63.平成25年4月南リアス線が、開通しました。中学生も地域の一員としてソーランを披露し、地域を応援しました。
- 64.防災教育は、人づくりだと思っています。今、中学生の皆さんが大人になったとき、優しくたくましく生きる大人になって欲しいと思います。
- 65.そしてまた10年後、20年後に、この地域にまた来るであろう津波に備えて、そして1000年に一度と言われる津波だったからこそ、1000年後にも伝えようという気持ちを持った大人をつくっているんだ、と私は思います。
- 66.阪神大震災のときに家の下敷きになって亡くなったのはるかさんという方がいらっしゃいます。そのはるかさんの家の跡地に咲いたひまわりの種を縁があっていただきました。何もかも亡くなった跡地に、ひまわりの種を植えたら芽がでて花が咲きました。生きる希望を私がもらったように思いました。釜石東中学校の跡地にも植えて、その種を持って、私は吉浜中学校に赴任いたしました。そして、吉浜中学校の花壇に咲かせた花の種は、タオルハンガーに入れて全国の方にお分けしているところです。

奇跡の集落 吉浜

被害状況

- 1 人的被害 行方不明 1名
さんりくの園(越喜来)で被災 11名
- 2 家屋等の被害 全壊家屋4軒 民宿1軒 倉庫等4棟
- 3 漁業施設関係 湾内5漁港防波堤倒壊
漁港事務所・給油施設・倉庫等倒壊
流失船280艘/300 5漁港地盤沈下70cm
- 4 ライフライン被害 停電・電話不通、食料・燃料難等
- 5 その他 川口橋決壊、県道陥没、亀裂数カ所、土砂崩落数カ所
沖田・河原耕地浸水(土砂堆積)、防波堤・松林流失7000本
吉浜中学校グラウンド・法面に亀裂数カ所等

48

被害が少なかったわけ

- 1 明治29年6月15日午後7時32分 明治三陸大津波の被害人口の約20%200人の人が亡くなる当時の新沼武右衛門(にいぬまぶえもん)村長が流失家屋全戸を高台移転させる。
- 2 昭和8年 昭和三陸大津波の被害(3月3日午前2時30分)被害家屋21戸死者17名(うち13名は他所からの移住者)当時の相崎壯太郎(かしわざきさうたろう)村長が流失家屋を高台移転させる。

※キーワードは高台移転！！
地域の団結！！

55

中学生や地域が参加できる復興

- 1 磯清掃や新巻鮭の作業を復活させたい(漁業協同組合の復活)
- 2 吉浜海岸を復旧したい
(松林の植林・海水浴場のがれき撤去・津波到達点を残す)
- 3 平成大津波記念碑を建立
- 4 先人の顕彰碑の建立
①初代村長 新沼武右衛門氏(明治29年大津波後高台移転)
②8代村長 相崎壯太郎氏(昭和8年大津波後高台移転)
- 5 地域の歴史を学び後世に伝える
- 6 復興する郷土を中学校から発信(ホームページ等)

57

学校・生徒会ができること

- 1 小中合同避難訓練(10月予定)公民館と協力
- 2 地区の安全マップ作り
- 3 記念碑の復旧・整備
・水上助三郎銅像草取り 6月23日(土)
・昭和8年津波記念碑の復旧 朝日新聞社に陳情2年修学旅行
・資源回収・募金で資金を集める
- 4 復興の様子をホームページで発信
- 5 交流会をする
・不來方高校音楽部コンサート(6月23日)保護者・地域の皆さんも参加
・福岡県大野城市の中学生と交流(2学年行事、保護者も参加)
・秦万里子さんふれあいコンサート(9月20日)保護者・地域の皆さんも参加

58

吉浜地区史跡 & 防災マップ

59

67.こんなかたちでも復興は支えていけるのかなと思います。

地場産業に関わる中学生です。

68.国道 45 号線に荒地がありましたらそこを耕して花を咲かせていこうじゃないか、トラックや通る人たちに見てもらおうじゃないかと地域のの人たちと一緒に花壇づくりをしています。

69.そして自分たちが体験したこと、これは小学校に感謝なのですが、演劇の好きな子どもたちが本校に通ってきます。東中学校でやっていたことを思い出して吉浜中学校でも演劇を昨年・今年と行いました。

70. 3 月には支援をうけてこのような石碑をつくることができました。

72.中学校の校庭にこども園の子どもたちが遠足にきます。中学校に来ることって楽しいことなんです。高台に上って楽しいことなんです。避難訓練でこわいこわいと植えつけないためにも、こども園と連絡をとって避難訓練を毎月行っているところです。中学校に来るとおねえちゃん、おにいちゃんと遊べて楽しいのです。

73.国の重要無形文化財に指定されている吉浜の伝統行事「スネカ」です。このお面をつけているのは本校の子どもたちです。こうして 200 年の伝統を受け継いでいる子どもたちです。この津波のこともきっと伝えてくれるだろうなと思っています。

防災教育に取り組むに当たり

- 1 生徒が主体的に取り組むように、体験学習を仕組む(学校)
- 2 地域の特徴(誇り)を生徒が実感できるように支援(地域)
- 3 生徒が素直に指導を受け入れる心の育成(保護者)
- 4 学校や地域が一体になり活動できる支援(行政)

- 防災教育は、人づくり
- 優しくたくましい人の育成
- 10年後20年後の地域を夢に描いて
- 1000年後に伝えよう！東日本大震災！

64



ひまわりの種入りタオルハンガー掛け作り開始
支援に感謝！！
阪神大震災も忘れない！！
東日本大震災も寄り添おう！！

66



- 平成25年度
- 津波記憶石建立
- 1000年後まで伝えよう

- 地域住民の念願！
- 全優石の支援

70



吉浜こども園の園児たちも中学校にきます。ちよつとした遠足気分が坂道を上ってきます。これが災害時の避難訓練につながります。

72



スネカ

国の重要民族無形文化財

1月15日夜のみ

吉浜中学校の全校生徒が支えている伝統行事約200年続いている

ご静聴ありがとうございました。

73